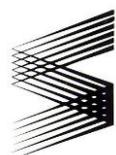


令和3年度

学校だより
令和3年 5月31日



さつきが丘

6月号 第338号

子どもが「自ら」学ぶ学校へ

学校長 金子 博美

木々の若葉がみずみずしく、日差しも強く感じられる季節となりました。学校では「創立30周年」という記念の一年としての取組が動き出しています。代表の子どもたちによる「アニバーサリー祝い隊」という実行委員会を中心に、話合いや活動の準備が徐々に始まりました。

5月の代表委員会に出席した時のことです。その日の議題は「30周年記念の取組について話し合おう」でした。代表委員会は4年生以上の各学級代表が参加します。みんな、学級で話し合ってきたことをもとに、よく意見を出し合っていました。代表委員の6年生の中には、なぜそうするとよいか、もし取り組むならこうしたい、など自分が思ったり感じたりしたことを積極的に話す姿も見られました。子どもたちにとって、学校の創立を祝うことはこれまでに経験のないことですが、一人ひとりが自分事にとらえていたことに感心しました。きっとこれまでに自分がお祝いをしてあげたりしてもらったりした経験を重ねていたのかもしれない。そこには、自分たちの学校のお祝いを自分たちで進めようと、「自ら」意見を出し合う姿が確かにありました。取組、成功の予感です。

教育に関する書物や報告などに目を通すと、「自ら」という言葉が大変多く登場しているように感じます。昨年度の一斉休校の際には、子どもが「自ら」学ぶことができなかった背景もあり、私自身、気になっているのでその文字に目が行くのかもしれない。そもそも子どもには『自ら』学ぶ力が備わっていると考えます。しかし、その力を十分に発揮できるようにするためには、単に子どもが好きなことをすればいい、というわけではありません。子どもたちがよりよく学ぶためには、教師が適切にかかわり、指導していくことが必要です。また、「学び」の過程では、新たなことに触れて関心をもったり、最初はやる気がなかったけれどどんどん面白くなってきたり、友達と一緒にやってみたら楽しかったりするような体験を伴い、その体験の繰り返しによって、また新たな「学び」へとつながっていきます。

5月28日には「オープニングセレモニー」を行いました。もちろん実行委員の企画・進行です。今後は、全校に呼び掛けてマスコットを決めたり、自分たちが使えるような記念グッズを考えたりする計画を立てています。6年生からは「学校の歴史について調べてみよう」などの声もあるようです。また12月の「エンディングセレモニー」に向けて、今月から学年ごと順々にお祝いの活動があります。創立を祝う様々な活動を通して、子どもたちは多くのことを学ぶでしょう。「自ら」学ぶ子どもの姿を目の当たりにする絶好の機会です。教職員一同、学ぶ主体である子どもを出発点として、時には共に考え、時には信じて見守り、成し遂げたことを喜び合うことができるよう、職員も「自ら」学ぶ姿勢をもって取り組んでいく考えです。節目の年、気持ちも新たに「自ら」学ぶ学校をつくっていきます。